

# 新日鉄住金エンジン

新日鉄住金エンジン タンパッケージR<sup>®</sup>を  
アリンクは1月22日、用いたマルチテナント  
システム建築商品「ス システム建築施設「ロジポート



物流施設の全景

川越西(埼玉県狭山市)で報道陣向けの現場見学会を開催した。同施設では、スタンパッケージR<sup>®</sup>と制振・免震部材「アンボンドブレース」を組み合わせた工法を同社初採用。工事の初期段階から構造設

## 物流施設「ロジポート川越西」

# スタンパッケージR アンボンドブレース採用



1階



2階

計に問わず、よりコンパクトな柱・梁で構成された構造フレームを実現した。

アンボンドブレースは1階部分に56本を採用。大幅な躯体数量の削減にも繋がり、重量は10-15%抑えられている。フラットデッキなどの建築用部材につ

いても、新日鉄グループの部材を活用。鉄骨使用量としては約1700トとなっている。

これまで同社におけるシステム建築事業は2000-3000平方メートルの工場倉庫が主対象だったが、今回の2階建物流施設において

も採用が進み、システム建築事業の営業展開にも弾みをつけている。今後も物流施設の建築案件増加が見込まれることを受け、新たな営業チームも編成。

将来的には年間40-50億円の受注を目指していく方針だ。同施設は2月2日に竣工。鉄骨造2階建で、

延床面積は2万3756平方メートル。施主はフサール不動産投資顧問が設立した狭山日高プロパティ、設計・施工はサンエス建設が担当した。物流施設の特徴として、専用のタレットで室内の照度管理を行うSmartLEDZを採用。倉庫内の必要箇所に光を当て、効率的な照度管理が可能となっている。SmartLEDZは製造現場で多く採用されてきたが、東日本の物流施設としては初採用。現在はテナント企業向けの内覧会を開催しており、省エネ及び電気代削減に力を入れる物流施設としても注目を集めている。